

## 2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

### 評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	評価計画策定、結果考察の実行団体ヒアリング、PO デスカッション	山口美知子、西村俊昭	公益財団法人東近江三方よし基金 PO
		石原尚美、小俣健三郎、平井祐佳、坂本逸志	公益財団法人うんなんコミュニティ財団PO
		南真司、能登貴史、藤田智晃	公益財団法人南砺幸せ未来基金 PO
外部	実行団体ヒアリング、PO デスカッションまとめ	西村俊昭	株式会社農楽

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

##### 【資金支援】

指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1. 実行団体の対象地域において、孤立者へのコミュニケーションサポート体制が構築されつつあり、孤立者が本心を発言できはじめている地域になる。	1)発言者数:11 団体×5～50 人程度 2)孤立者が本心を発言できはじめている要因がわかる 地域の状態の具体例:11 地域の具体例	2023 年 3 月	・手を握った人数:1～180 人 計 395 人

2. 実行団体の対象地域において、孤立者及びその世帯へのアウトリーチ体制が構築されつつあり、孤立者・その世帯がアウトリーチを受けはじめている地域になる。	1)アウトリーチする支援者数:11 団体×5～50 人程度 2)孤立者・その世帯がアウトリーチを受けはじめている要因がわかる地域の状態の具体例:11 地域の具体例	2023 年 3 月	・手を握り続けた人数:1～123 人計 323 人
3. 実行団体の対象地域において、孤立者と地域とのつながる場が構築されつつあり、孤立者が役割を持ち地域とつながりはじめている地域になる。	1)地域数:11 地域 2)孤立者が役割を持ち地域とつながりはじめている要因がわかる地域の状態の具体例:11 地域程度の具体例	2023 年 3 月	・つながった地域の団体数:3～19 団体:103 団体

**【非資金的支援】**

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1-1. 実行団体への支援により、実行団体のスタッフのスキルが向上している。	実行団体スタッフのスキル向上事例(具体例のアンケート調査):11 団体の事例	2023 年 3 月	・活動を通してスキルが向上している。
1-2. 対象地域において、実行団体への支援や実行団体の活動により、協力者・賛同者が増え、地域での総働がはじまっている。	1)協力者・賛同者数:11 団体×5～50 人程度 2)総働体制図(ネットワーク図)	2023 年 3 月	・協力者・賛同者数:3～19 団体:、103 団体 ・総働体制図(ネットワーク図):完了時に向けて検討中



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>11 実行団体の活動により孤立者を見つけ、手を握り続け、地域につなげる体制づくりと成功体験は着実につまれ、地域の総働が始まってきている。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	活動は計画どおり実施されているか？(資金的支援)	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>アウトプットの 1)孤立者へのコミュニケーションサポート体制の構築(孤立者と手を握る)、2) 孤立者及びその世帯へのアウトリーチ体制の構築(孤立者の手を握り続ける)、3) 対象地域の孤立者と地域とのつながる場の構築(孤立者を地域につなげる)ごとに、サポート体制と成功体験を整理できた。</p> <p>11 のサポート体制</p> <p>成功体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手を握った人数:1~180 人 計 395 人</li> <li>・手を握り続けた人数:1~123 人 計 323 人</li> <li>・つながった地域の団体数:3~19 団体:103 団体</li> </ul>	<p>整理の結果、活動は計画どおり実施されていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <p>(孤立者と手を握る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 見学、体験、試行、イベントなどを実施</li> <li>● Web、メディア等に情報発信</li> <li>● 地域からの情報提供、専門家からの紹介</li> <li>● 拠点での活動とPR</li> </ul> <p>(孤立者の手を握り続ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実行団体の活動拠点と持続可能な運営体制をベースに、孤立者との対話、地域資源を活用した支援</li> <li>● SNS 等によるオンラインコミュニティの場</li> <li>● 孤立者の関係人口を増加させる取組</li> </ul> <p>(孤立者を地域につなげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動を行う地域の住民自治組織への情報発信と連携のあり方検討と実践</li> <li>● 連携組織の交流、情報共有と役割分担</li> <li>● 孤立者を知っている人を増加させる取組</li> </ul>

	<p>孤立者を地域につなぐ民間公益活動団体を支援できているか？ (非資金的支援)</p>	<p>11 実行団体のプログラムオフィサーヒアリング調査</p> <p>実行団体が計画どおり活動して成果を発生させているかの確認と支援内容を整理できた。</p>	<p>整理の結果、孤立者を地域につなぐ民間公益活動団体を支援できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実行団体の運営体制(人的資源、資金の不足など)</li> <li>● コロナの活動への影響(中止、延期、縮小など)</li> <li>● 孤立者のニーズのずれ</li> <li>● 拠点施設の整備の遅延</li> <li>● 行政との連携(情報提供、協力など)</li> </ul>
	<p>事業を達成するうえで支障となる問題は起きていないか、その要因は何か？</p>	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>11 実行団体の事業を達成するうえで支障となる問題と要因を整理できた。</p>	<p>整理の結果、事業を達成するうえで支障となる問題と要因及び対策を把握できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実行団体の運営体制:実行団体の運営体制について、スタッフのマンパワーなど人的資源、資金の不足などが要因で問題が起きている。→収益事業立ち上げや寄付などの資金調達の検討を今後行う。</li> <li>● コロナの活動への影響:コロナの影響で活動の中止、延期、縮小など活動に支障をきたした。→コロナ禍でも可能な活動にシフトする。</li> <li>● 孤立者のニーズのずれ:湖東まちづくりの通学困難者のニーズと実際の行動とのずれや、空き家所有者は売り希望、移住者希望者は賃貸希望など、孤立者のニーズと活動のずれが活動の支障となっている。→孤立者のニーズに合わせて活動の変更を行う。</li> <li>● 拠点施設の整備の遅延:拠点施設の整備の遅延→整備中からでもできることを開始している。</li> <li>● 行政との連携(情報提供、協力など):孤立者の情報や協働など行政との連携は、一民間公益団体では、他の民間事業者と差別化が難しく、協力を得られないケースがある。→民間事業者の連携活動を行い、行政には情報提供から開始する。(若手の行政マンを巻き込んだ勉強会、行政につなぐパターンをいくつか持つなど)</li> </ul>

	今後留意していかなければならないことは何か？	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>11 実行団体の今後留意していかなければならないことを整理できた。</p>	<p>整理の結果、今後留意していかなければならない事項を把握できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業完了後、持続可能に運営できるよう事業と資金調達の準備</li> <li>● 利用者拡大に伴うコミュニケーション</li> <li>● 活動したから見えてきた新たな課題への対応</li> </ul>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	アウトプット発生に影響を与えた阻害要因、貢献要因は何か？	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>11 実行団体のアウトプットの達成状況を踏まえ、アウトプット発生に影響を与えた阻害要因、貢献要因を整理できた。</p>	<p>整理の結果、アウトプット発生に影響を与えた阻害要因、貢献要因を把握できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <p>(貢献要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業計画策定を通して、課題、アウトカム、アウトプット、活動を明確にしておいたこと</li> <li>● 事業により関連組織がつながれたこと</li> <li>● 公共事業でないので制度・基準にしばられなく、対象者の個々のケースに寄り添った臨機応変で迅速な対応ができたこと</li> </ul> <p>(阻害要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナや自然災害の影響</li> <li>● 拠点施設整備の実施精査による工期の遅延</li> <li>● 対象者、地域、関連団体との認識のずれ</li> </ul>

<p>事業の進捗や3地域での連携により、知見の共有や活動の改善が行われているか？</p>	<p>プログラムオフィサーヒアリング調査</p> <p>11 実行団体の事業の進捗や3地域での連携により、知見の共有や活動の改善内容を整理できた。</p>	<p>整理の結果、知見の共有や活動の改善が行われていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <p>(活動の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象者と手つなぐ、地域とつなぐ活動の改善</li> <li>● 事業計画、ガバコン規程、推進体制など運営活動の改善</li> </ul> <p>(知見の共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● PO や財団自身及びネットワークを生かし、人的資源、社会関係資源を実行団体につなげて、取組を加速化させる有効性</li> <li>● 活動が上手く行ってないときは、目指すべき地域の状況(アウトカム)を再確認して、活動改善をすること</li> <li>● 制度・基準にとらわれず、対象者に必要な形を見せられる活動の拠点の重要性</li> <li>● 対象者のネットワークは災害時のセーフティネットになる</li> </ul>
<p>今後すべき非資金的支援の内容が整理できているか？</p>	<p>プログラムオフィサーヒアリング調査</p> <p>11 の実行団体の各プログラムオフィサーからヒアリング調査を行い、アウトプット、アウトカムの達成のために、今後すべき非資金的支援内容が整理できた。</p>	<p>その結果、今後すべき非資金的支援の内容が整理できていると評価する。</p> <p>今後すべき非資金的支援内容の総括は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業完了後の事業計画策定の支援(資金調達、推進体制、他団体との連携など)</li> <li>● 成果の見える化</li> <li>● 地域団体、個人との連協促進</li> </ul>

	<p>知見の共有、活動の改善について、3地域の共通点、相違点が整理できているか？</p>	<p>プログラムオフィサーのディスカッション調査</p> <p>知見の共有、活動の改善について、3地域の共通点、相違点が整理できた。</p>	<p>整理の結果、知見の共有、活動の改善について、3地域の共通点、相違点が整理できていると評価する。</p> <p>コンソーシアムだからこそできた非資金的支援の内容、3地域の共通点、相違点(地域差)は、次のとおりである。</p> <p>(コンソーシアムだからこそできた非資金的支援の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3市の強みを生かしたプログラムオフィサーの学び合い</li> <li>● 東近江市の先行した知見の共有</li> <li>● 実行団体の学び合い</li> <li>● まったく違うエリアの視点が入った</li> <li>● 実行団体、プログラムオフィサーの知見を共有</li> <li>● 単独での非資金的支援より実行団体の信頼を得られた</li> <li>● 以上より各実行団体、プログラムオフィサーが足りない部分を持ち帰る</li> </ul> <p>(3地域の共通点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「(2) 知見の共有や活動の改善が行われているか」を参照。</li> </ul> <p>(3地域の相違点(地域差))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各団体の設立経緯が違う</li> <li>● 行政との距離(市民ニーズ、行政ニーズのバランス)</li> </ul>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>事業の運営管理体制に問題はないか？</p>	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>11 実行団体の事業の進捗より、運営管理体制の問題点を整理できた。</p>	<p>整理の結果、運営管理体制の問題点を把握できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小規模事業者はマンパワー不足</li> <li>● 本事業期間に、収益事業、資金調達の準備</li> <li>● リスクマネジメントの準備</li> </ul>



	<p>組織の財務状況、財務体質に変化は生まれているか？</p>	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>11 実行団体の事業の進捗より、組織の財務状況、財務体質の変化を整理できた。</p>	<p>整理の結果、組織の財務状況と財務体質の変化を把握できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業で拠点やしきみづくりができ、持続可能な活動とするための収益事業、資金調達の準備</li> </ul>
	<p>地域内で新たに構築された人や団体との協力、連携関係はあるのか？</p>	<p>11 実行団体ヒアリング調査</p> <p>つながった地域の団体数:3～19 団体:103 団体</p>	<p>整理の結果、地域内で新たに構築された人や団体との協力、連携関係を把握できていると評価する。</p> <p>11 実行団体の結果を受けて、プログラムオフィサーのディスカッションより、全体の総括は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業をきっかけに、孤立者を地域につなげるために様々な関係団体がつながってきた。</li> </ul>

<p>3 地域の連携により、組織基盤が強化されたか？</p>	<p>プログラムオフィサーのディスカッション調査</p> <p>プログラムオフィサーによるフォーカスグループディスカッションより、3 地域の連携による組織基盤が強化された内容を整理できた。</p>	<p>整理の結果、3 地域の連携により、組織基盤が強化されたかを整理できていると評価する。</p> <p><b>(実行団体)</b> 次の非資金的支援で気づきを得て組織基盤が強化された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前評価、中間評価のヒアリングでの気づき</li> <li>● 学び合いでの気づき</li> </ul> <p><b>(資金分配団体)</b> 運営委員会などコンソーアムでの活動、情報交換を通じて組織基盤が強化された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プログラムオフィサーの活動の学び</li> <li>● 運営の学び</li> </ul> <p><b>(その他)</b> 実行団体の組織基盤強化のために、今後の可能な支援は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の課題設定をしてテーマでの寄付などの資金調達ができる</li> </ul>
<p>組織基盤の強化について、3地域の共通点、相違点が整理できているか？</p>	<p>プログラムオフィサーのディスカッション調査</p> <p>プログラムオフィサーによるフォーカスグループディスカッションより、組織基盤の強化について、3 地域の共通点、相違点を整理できた。</p>	<p>整理の結果、組織基盤の強化について、3地域の共通点、相違点が整理できていると評価する。</p> <p><b>(3地域の共通点)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「(1) 事業の運営管理体制に問題はないか」を参照。</li> </ul> <p><b>(3地域の相違点(地域差))</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政からの支援が違う <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 東近江市: 東近江市SIBの委託</li> <li>✓ 南砺市: 人材育成の委託</li> <li>✓ 雲南市: 環境活動等に関する調査研究委託</li> </ul> </li> <li>● 雲南市は若い人材が多い</li> </ul>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- 事業計画策定を通して、課題、アウトカム、アウトプット、活動を明確にしておいたこと
- 事業により関連組織がつながれたこと
- 公共事業でないので制度・基準にしばられなく、対象者の個々のケースに寄り添った臨機応変で迅速な対応ができたこと

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- 第1回実行団体の学びあい会 2021年10月30日「ひきこもり、障がいなどで生きにくさをかかえる人たちへの支援団体」において、TeamNorishiroの活動が、マーシ園、ガラパゴス、倶楽部 3C「夢」Club 実行委員会の本事業の活動に大いに参考になったこと。
- はぐの活動で、孤立者のコミュニティ形成のためにLINEグループを設定したが、豪雨災害時の情報連絡にも活用できたこと。
- TeamNorishiro、愛のまちエコ倶楽部など拠点施設の整備後に、効果が発生するものと想定していたが、整備中も拠点を活用して効果が発生できた。(TeamNorishiroは拠点の片づけ作業を対象者の支援として活用したり、愛のまちエコ倶楽部では改修作業自体をワークショップにして、対象者との接点に活用したことなど)



④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</li></ul>	<p>事後評価の際に、アウトプット、アウトカムの指標、調査方法、目標を精査する。</p>

添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画（必須）
- 2.中間評価実施後の事業計画